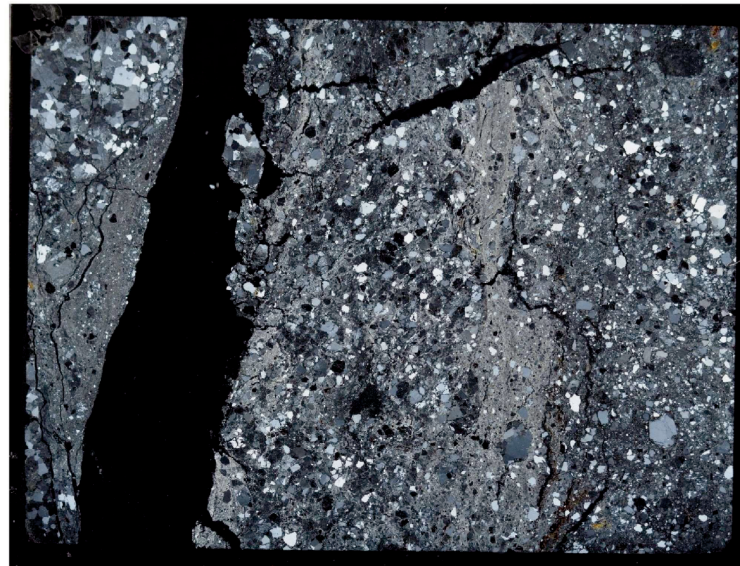


H27-B-1深度74.36~74.50m 最新活動面の深度 (No.最-23) を変更

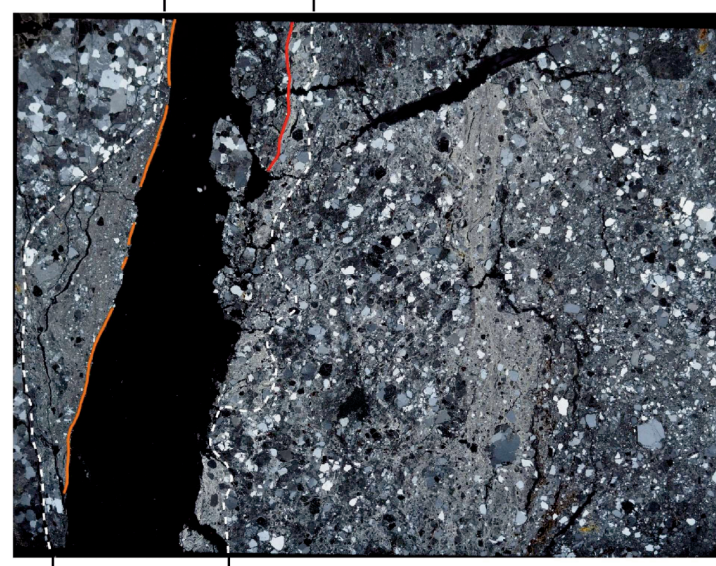
H27-B-1 深度74.36~74.50m 薄片観察 最新活動面の認定その1

- ・深度74.36mにおける断層面α沿いの④ゾーンでは、他の構造に切られていないY面A及びY面Bが認められる。その分布を以下に示す。
- ・Y面Aは直線性に富み、連続性に富む。割れ目沿いのため、一部でしかトレースできない。細粒部を伴う。
- ・Y面Bは直線性に富み、連続性に富む。Y面Aより直線性・連続性に富む。細粒部を伴う。
- ・以上のことから、Y面Bを最新活動面と認定した。



直交ニコル 全景写真

1cm



直交ニコル 全景写真

最新活動
ゾーン

Z(W) ←
↓
X(52° R)

- 1cm
- 凡例
 - Y面A
 - Y面B
 - 最新活動ゾーン*
- *: 写真上は白色又は黒色で記載

※Y面は確実に認定できる部分のみを記載しており、割れ目や不明瞭箇所では記載していない

H27-B-1深度74.36~74.50m 最新活動面の深度 (No.最-23) の変更に伴い走向・傾斜 (No.最-24) を変更

- H27-B-1深度74.36~74.50mの破碎部において、深度74.36mの断層面 (断層面α) に対応する走向・傾斜の計測結果に変更した。

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H27-B-1 深度74.36~74.50m)

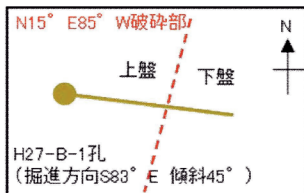
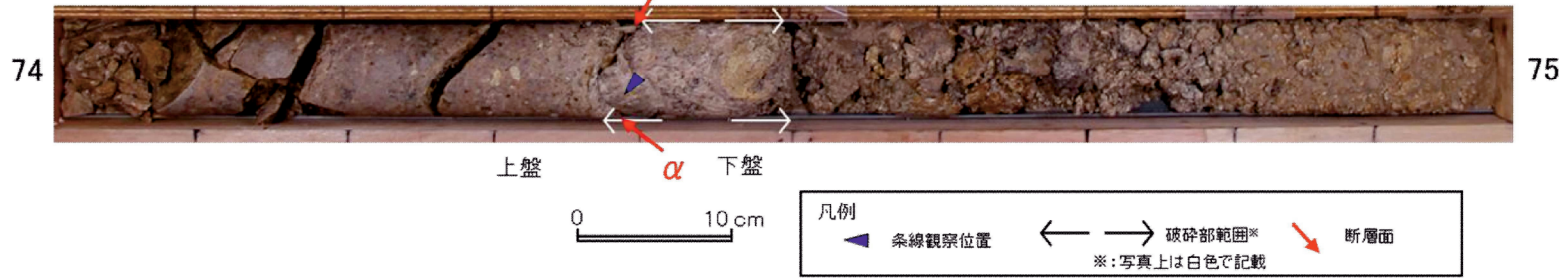
- H27-B-1 孔 深度74.36~74.50mの破碎部の断層面αの走向・傾斜はN15° E85° Wである。



H27-B-1深度74.36~74.50m 最新活動面の深度 (No.最-23) の変更に伴い条線 (No.最-25) を変更

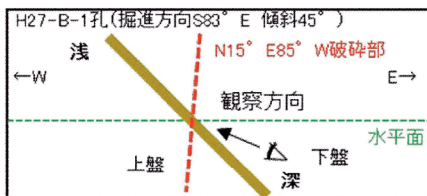
- 変更後の最新活動面において、条線観察を行った結果である54Rに変更した。

コア写真



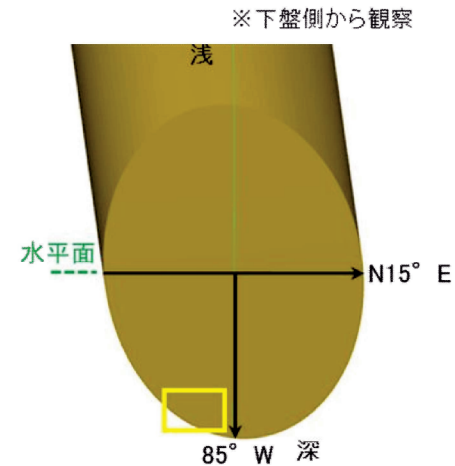
- ・ボーリングは掘進方向S83° E, 傾斜45° で掘削している。
- ・破碎部の走向・傾斜はN15° E85° Wであり、ボーリングと破碎部の平面的な位置関係は左図のようになる。
- ・破碎部は西傾斜であることから、西側が上盤、東側が下盤となる。

図1 H27-B-1孔位置平面図(模式図)

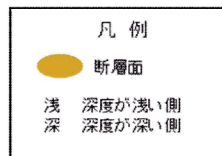


- ・ボーリング (S83° E, 傾斜45°)と破碎部 (走向・傾斜N15° E85° W)をボーリング孔沿いの断面図で示すと左図のようになる。
- ・ボーリング孔の浅い側が上盤, 深い側が下盤となる。

図2 H27-B-1孔を通る断面図(模式図)



※下盤側から観察



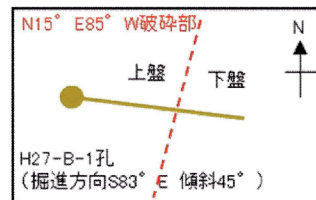
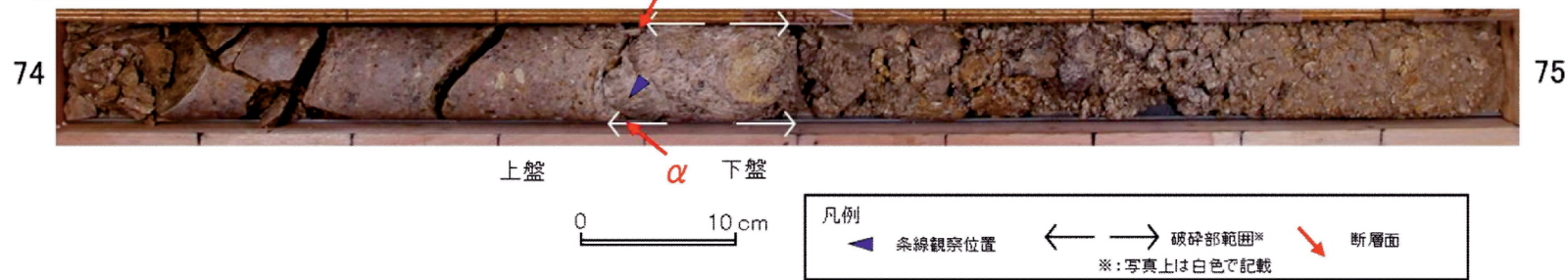
※図2で示した観察方向から、最新活動面に正対して描いた3次的な図

図3 最新活動面と走向・傾斜の関係図

H27-B-1深度74.36~74.50m 最新活動面の深度 (No.最-23) の変更に伴い条線 (No.最-25) を変更

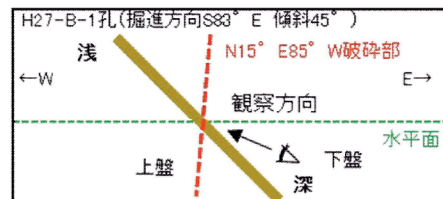
- 変更後の最新活動面において、条線観察を行った結果である54Rに変更した。

コア写真



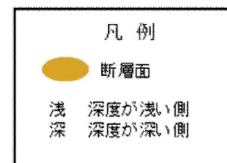
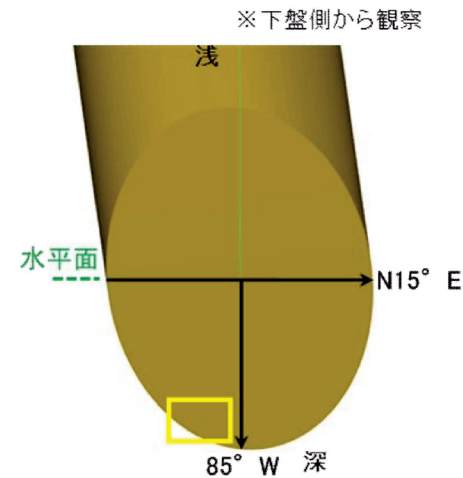
- ・ボーリングは掘進方向S83° E, 傾斜45° で掘削している。
- ・破碎部の走向・傾斜はN15° E85° Wであり、ボーリングと破碎部の平面的な位置関係は左図のようになる。
- ・破碎部は西傾斜であることから、西側が上盤、東側が下盤となる。

図1 H27-B-1孔位置平面図(模式図)



- ・ボーリング (S83° E, 傾斜45°) と破碎部 (走向・傾斜N15° E85° W) をボーリング孔沿いの断面図で示すと左図のようになる。
- ・ボーリング孔の浅い側が上盤、深い側が下盤となる。

図2 H27-B-1孔を通る断面図(模式図)



※図2で示した観察方向から、最新活動面に正対して描いた3次元的な図

図3 最新活動面と走向・傾斜の関係図

H27-B-1深度74.36~74.50m 最新活動面の深度 (No.最-23) の変更に伴い条線 (No.最-25) を変更

- 条線は最新活動面において観察していることを確認した。

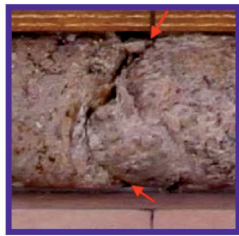
条線観察位置補足資料(H27-B-1 深度74.36m)

- 条線観察位置を残試料より復元し、薄片作製と条線観察を行った断層面が同じであることを確認した。

コア写真



研磨片作製位置



青枠部拡大
凡例
断層面

試料切断面



凡例
断層面

条線観察位置



凡例
条線観察位置

条線観察位置拡大



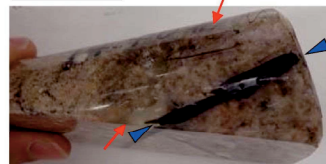
黄枠部拡大
5mm

研磨片写真(コア向き)



0 5 cm
凡例
試料切断方向

薄片用試料



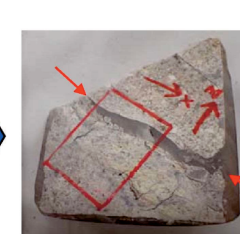
0 5 cm
凡例
試料切断方向

試料切断面



0 5 cm

薄片作成位置



0 5 cm
凡例
断層面

1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

- ・最新活動面を120.65mの幅狭いオリーブ灰色部の上端に変更（No.最-27）
（深度差1cm以下のため、深度標記は変更なし）

【理由】変更後の最新活動面認定方法に基づき実施した結果に変更

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

- a 性状一覧表のコア写真上で最新活動面を示す矢印の位置を変更
（No.最-27）
- b ブロックサンプル上で最新活動面を示す矢印の位置を変更（No.最-27）

H27-B-2 深度120.63~120.65m 最新活動面の位置 (No.最-27) を変更

従前

第833回審査会合
机上配布資料2
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について
参考資料2 性状一覧表
参考2-184頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

15.非モデル化破砕帯
性状一覧表(12/19)

調査区 の番号	種別 番号	破砕帯 の長さ (m)	深度 (m)	傾斜 (°)	調査区 の長さ (m)	調査区 の傾斜 (°)	調査区 の方位	調査区 の形状	調査区 の性状		調査区 の性状	
									調査区 の性状	調査区 の性状		
15	H27-B-2 (破砕帯)	61.02	61.06	N25E	749	3.5	-	-	-	90	北	63
16	H27-B-2 (破砕帯)	81.50	81.78	N13E	839	14.4	-	-	-	90	北	85
17	H27-B-2 (破砕帯)	91.09	91.79	N20W	929	5.7	-	-	-	90	北	91
18	H27-B-2 (破砕帯)	101.83	101.68	N36E	770W	1.7	-	-	-	30	東	120
19	H27-B-2 (破砕帯)	131.73	133.00	N10	336	16.4	3.1	南	-	21	-	133

No.最-27
(赤矢印なし)

a
a

凡 例
最新活動面 ← → 破砕帯
調査区アジ 調査区アジ
調査区アジが延長される箇所
調査区アジ
調査区アジ

【破砕帯】
粘土状破砕帯、砂状破砕帯、角礫状破砕帯、
固結した粘土状破砕帯、固結した砂状破砕帯、固結した角礫状破砕帯
の区分の他に、破砕帯の定量的評価が長軸に実施した。
【参考2-184】
* 滑：最新活動面が連続的なもの
非平滑：最新活動面が連続的なもの

参考2-184

見直し後

調査区 の番号	種別 番号	破砕帯 の長さ (m)	深度 (m)	傾斜 (°)	調査区 の長さ (m)	調査区 の傾斜 (°)	調査区 の方位	調査区 の形状	調査区 の性状		調査区 の性状				
									調査区 の性状	調査区 の性状					
H27-B-2 (破砕帯)	15	61.23	61.18	N25E	839	28.8	北	北	北	1.5	北	正	-	D-1	81
H27-B-2 (破砕帯)	16	63.75	63.65	N47W	240E	6.5	南	南	南	-	28	東	正	北	84
H27-B-2 (破砕帯)	17	65.02	65.08	N25E	730E	3.5	南	南	南	-	30	正	-	北	88
H27-B-2 (破砕帯)	18	81.54	81.79	N20E	836	16.4	北	北	北	-	15	-	北	北	95
H27-B-2 (破砕帯)	19	85.33	85.43	N20E	816	3.8	南	南	南	6.3	南	20	北	D-1	88
H27-B-2 (破砕帯)	18	85.88	85.84	N36E	129W	1.6	南	南	南	2.8	南	25	正	北	100
H27-B-2 (破砕帯)	17	91.09	91.79	N20W	929	5.7	北	北	北	-	30	東	北	北	91
H27-B-2 (破砕帯)	18	101.83	101.68	N36E	770W	1.7	南	南	南	-	30	東	正	北	120

No.最-27
(赤矢印位置)

a
a
a

※1 断層区分の総合評価に基づき記載し、肉類「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
※2 斜めホーリングの場合は、許容値を補正した値を記載
※3 記載しない破砕帯については「-」を記載(固成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
-(上記以外)、データを取得していない箇所

凡 例
最新活動面 ← → 破砕帯
調査区アジ 調査区アジ
調査区アジが延長される箇所
調査区アジ
調査区アジ

第7.4.4.14(4) (2) 破砕帯性状一覧 (H27-B-2)

6-T-1593

H27-B-2 深度120.63~120.65m 最新活動面の位置 (No.最-27) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

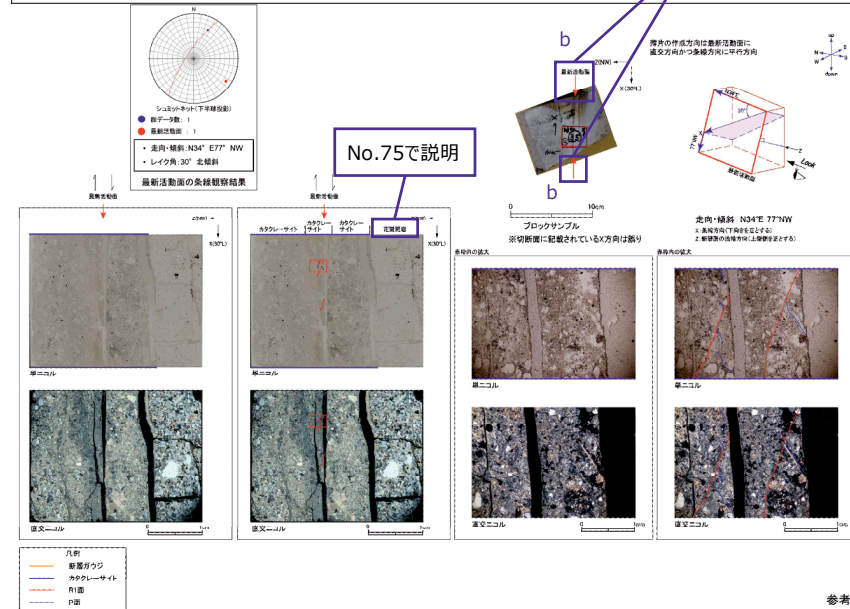
参考資料 1 薄片観察結果

参考1-212頁

第833回審査会合 机上配布資料Iに追記(青太枠)

非モデル化破砕部 薄片試料観察 (H27-B-2 深度120.65m)

H27-B-2のボーリングコア(深度120.65m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。



・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレサイトのみからなる破砕部であると判断した。
➢ (カタクレサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
➢ (カタクレサイト) 粘土鉱物は漸移的に変化する。
➢ (カタクレサイト) 多様な粒径の岩片が認められる。
➢ (カタクレサイト) 角ばった岩片が多い。
➢ (カタクレサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
➢ (カタクレサイト) 塑性変形した葉母粘土鉱物が認められる。

